



# 善正寺だより

掲示板法話

## 三宝に帰依し 互いに敬い 真の言葉でつながり合おう



ロシアのウクライナ侵攻が未だ、終わらない中、今年も八月を迎えます。この戦争は、ウクライナでの野蛮な破壊と殺戮が続くことによって恐ろしいような地球環境の破壊行為になっていきます。また、エネルギーや食糧危機の被害を世界中に及ぼし、特にアフリカのような貧しい国々の人々の生存の脅威ともなっています。一日も早い停戦と世界中の助け合いが今日ほど求められている時はないのではないのでしょうか？

また、日本では新型コロナウイルスの感染状況が一時沈静化の傾向となり、行動制限のない状況が続きましたが、七月初めごろから再拡大の気配が見られ、今年のお盆も親戚縁者が集まりにくいお盆になるのではなからうかと懸念されます。

お盆は盂蘭盆会(うらぼんえ)とも言い、お釈迦さまのお弟子、神通第一とも称される目連尊者が、餓鬼道の苦しみの中から亡き母親を救い出したいとの願いをお釈迦さまに訴え、雨季の安居(仏弟子たちの研修)の終わる時、大

衆と共に供養せよ、と教えられ、餓鬼道から母を救い出す道を知らされて、躍り上がって喜んだという話が伝えられています。

他宗では「施餓鬼」という場合もありますが、浄土真宗においては「歡喜(母親の救われることを喜んだ)に会う日」ということから「歡喜会(かんぎえ)」と言う場合もあります。今では盂蘭盆会といい、本山では切子灯籠を余間に吊るしてお勤めがされます。その「盂蘭盆(うらぼん)とは、「逆さ吊りされるほどの苦しみ」という意味ですが、これは目連さんの母に限ったことでなく、我々凡夫も自己中心の生き方を免れられない身を自覚すべき仏縁です。

「人身受け難し、今すでに受く。仏法聞き難し、今すでに聞く。この身今生に向かつて度せずば、さらになにの生に向かつてかこの身を度せん。大衆もるともに至心に三宝(仏法僧)に帰依したてまつるべし」(礼讃文:三帰依文より)。

人の命は受け難いけれども今、既に頂いています。仏法は聞き難いけれども

〒:512-0902  
三重県四日市市  
小杉町1014  
浄土真宗  
本願寺派  
善正寺  
☎:059-331-1670  
fax:059-332-0733

### ☆行事ご案内☆

#### 盂蘭盆会法要 (7回目)



8月15日(月)午前8時半

正信偈、焼香、法話、地元や納骨堂利用者等、有縁の方お参り下さい。短時間で終了、お盆参りを寺で一緒に!

#### 秋季永代経法要 (9月第3土・日に移動しました)

9月17(土)・18(日)午後1時半

講師:加藤正人先生(桑名)

例年お盆過ぎにお勤めしましたが、猛暑の為移動。

お経開きは初日の午前10時半(関係者)

夕方5時の鐘撞き 年中無休、誰でも撞けます。

ご褒美にガム・チョコ進呈。合掌できる子を育てよう

善正寺プレバト俳句募集 小5孫も参加、各方面より

多彩な作品が寄せられて益々充実、皆様もご応募下さい

善正寺ホームページ「三重善正寺」検索1年分の寺

報閲覧。毎日更新ブログ「住職と坊守のつれづれ日記」

大好評。開設14年で38万2千。悩み相談可即返信

一縁会テレホン法話 ☎059・354・1454 三重組

5か寺が週替わりで3分法話。37年の歴史、法話集多数。

納骨堂:後継者のない方お墓でお困りの方ご相談下さい

法事場所:お困りの方、本堂使用可、寺にご相談下さい

も既に聞かせて頂く身になりました。この命がこの人生において救われなければ、一体いつの世に救われるのでしょうか。ご縁深き多くの人々と共に、真に心より三宝に帰依する身となりたものです。(礼讃文・取意)

何よりも、お盆の八月十五日は、太平洋戦争の終戦の日であり、数多くのご先祖、同朋の命の犠牲の上に、我が国は曲がりなりにも平和が訪れました。しかし、真の言葉を失い、武力(暴力)に訴える事例が絶えません。

仏法僧の三宝に帰依し、み仏さまの前には、皆兄弟、同朋と敬いあい、真の言葉でつながり合う世界を切り開いていきたいと思えます。

### ☆ 写真アラカルト ☆



### 坊守スケッチ

## ハードルは低く間口は広い寺に



ほうもり

先月末の第3回トライアングル『歌の集い』には、多数の皆様がご参加下さいまして有難うございました。当初諸々の行事と重なって極少数の人数しか集まらなさと覚悟していましたが、三〇席用意した椅子もたちまち埋まり、二〇席追加しました。予想以上の参加者に嬉しい悲鳴を上げました。

依然コロナの心配があるので、本堂を全て網戸に開放し、クーラーもフル回転、扇風機もある限り使用しました。猛暑にも拘らず、出演者の見事な演奏や歌と、参加者の熱意のおかげで、久しぶりに楽しい時間を過ごせました。

ブログを見て遠路お越し下さった方や、熱心にお仲間をお誘い下さった皆様に厚くお礼を申し上げます。

当日の参加者を見てみますと、初めてお寺の本堂に座られた『お寺デビュー』の方が大半でした。

「大画面を見ながらギターとマンドリンの演奏で歌手と一緒に懐メロを歌うのは楽しそう。行ってみようかしら」と軽いノリでご参加下さいました。勿論、最初と最後は全員で「本尊様に向かって合掌・礼拝して」挨拶。

参加者の心にお寺の雰囲気を感じて頂けたのではないかと拝察します。

とかくお寺は「門徒さん限定で、伝統行事をお勤めするのが第一で、本堂

はお説教を聞く場所であると考えがちです。しかし近年家族制度が崩壊し子孫にお念仏の教えが伝わらないのが現状です。こんな中でお寺に親しみを持って頂き、悩みがあれば気軽に寺に相談して頂ける、そんな存在を示す為の『ささやかな試み』でした。

家族の絆や地域の絆がどんどん壊れて寂しい時代ですが、今後もご縁ある人と集い、支え合って、明るく楽しいひと時を過ごしたいと思えます。

そのため善正寺は、「ハードルは低く間口は広く、開かれたお寺に」なりたいと思います。

### 俳壇

懐メロや本堂熱気心にも 釋妙水

虫払い腰にぶら下げ畑仕事

万緑やボール飛び入る草野球

薄野の路面電車や夏灯り 釋榮邦

風に舞うポプラの綿毛夏の雪

ルピナスの美瑛の丘の雲の峰

燕来る齒科の玄関要注意 釋住安

初なすび母玄関に吊るしけり

モノの池睡蓮の花咲きわたり

人間の愚かな戦亀鳴けり 釋妙玉

半夏生やるべきことのなんぞ多き

鷲の立つ稲田の水もそらごとか釋恵正

越後にて恵信尼さまは田植えかな

早起きの山の鶯老を鳴く 釋清風

沙羅の花苔の上にも白くあり 續く

### 若坊守のお得度報告No.92

去る六月中旬、ようやく得度式を受けました。昨年夏の十日間の得度習礼は、コロナ禍だったのでオンラインで受講しました。それから十か月後の『得度式』でした。

当日は男性十名、女性五名と通常の半分以下の人数で、緊張感のなか講義、作法の確認、式習礼などを受けました。昨年夏オンラインで習礼を受けた私は、不謹慎ながら勤式指導所の厳しい先生方のご指導に、「これこそが本物だ!」と感動してしまいました。

御影堂での日没勤行が終わると、いよいよ得度式です。親鸞聖人のお得度になぞらえ、扉を閉め、灯りも無い薄暗い中で式は進みます。

第一式は袴姿の俗世の身、第二式は僧侶となり黄袈裟を着けて臨みます。自分が自分でなくなったような不思議な感覚になりました。式後は国宝である鴻(こう)の間で大雨が纏わりつく湿気の中、ご本典(教行信証)などを頂きました。帰路は疲労感と安堵感に満たされ、早く子ども達に会いたいと急ぎ新幹線に乗りました。

ご指導や励ましの言葉を頂いた皆様、本当に有難うございました。



### お悔み申し上げます

★森敏幸様(6月17日往生、87歳、東坂部)合掌

### カンパありがとうございます

西寺正様、柴田美津代様、磐城様、MY様、YT様、他匿名様、感謝

### お知らせ

※今年度の門信徒会費を8月6・7日に住職・総代が手分けして集めます。あらかじめ葉書でお知らせしてありますが、ご都合の悪い方はご連絡下さい。在所は7月下旬から各行事さんが集めます。ご協力よろしくお願ひ申し上げます。

※第3回トライアングル『歌の集い』には50名程の皆様がご参加。初めてお寺へお越しになった方が大半でした。感謝申し上げます。

### ※緑陰や吾呼ぶ声は小綬鶏か

散髪音軽やかに夏の朝 釋秀龍  
風鈴のかすかばくらの笑い声  
若葉かぜ歩道橋行くりユックの子

### ☆ 編集子より ☆

「善正寺だより」344号をお届けします。◇選挙期間中の元総理襲撃事件は、暗い時代に戻ったのではないかと不安を感じさせる出来事。◇人の世は言葉でつながり合っている筈だが、言葉の失い、暴力(武力)に訴えるとは、悲しい。◇職場や学校でも家庭でも、生きた言葉が通い合う世界でありたい。それが仏さまの願ひ。合掌。

今年もお金の季節が巡って来ました。特に初金を迎えられる方はひときり感慨深いお盆となるでしょう。お金の由来は、お釈迦様の弟子の目連尊者が亡き母が地獄で逆さ吊りの苦しみを受けていることを知り、何とかして母を救済できないかとお釈迦様に教えを乞いました。お釈迦様は「旧曆のワ月15日に高僧が修行を終えるので、その時に供養すれば母を三途の苦しみから救える」と伝え、目連尊者がその通りにしたら母が無事往生したという伝説によります。ところで先日梅原猛氏と瀬戸内寂聴氏の対談本「生きまいる仏を讀んでハッ」と気づかされたことがあります。本来「よみがえり」という言葉は「黄泉がえり」という漢字を充てるそうです。死んだ人が「黄泉の国」から戻ってくるお盆と似ています。とかく現代人は死んだら終いと思いがちですが決してそうではありません。古来日本人はお盆やお彼岸には「先祖が還ってくる」と信じ、次に生まれてくる子は、亡き先祖の生まれ変わりだとも思いました。「あの世」を信じて亡き人とも再び会える世界があるとも信じました。あなだが合掌する時先立たた仏様は私を救う為に還ってきて来て下さるので、お盆のいわれを深く味わい、亡き人と心を通わせましよう。善正寺では8月15日午前8時半より本堂で盂蘭盆会法要を勤めます。ご縁のある方はどうぞぜひお参り下さいませ。また従来お盆過ぎに勤めていました秋季永代経を近年の猛暑故一ヶ月遅れの9月の第3土曜日曜日にお勤めします。ご理解下さいませ。ようお願ひ申し上げます。くれぐれもご自愛下さいませ。合掌

令和四年八月

善正寺坊守様